

夏祭り



八月二十五日 金曜日

九月一日 金曜日

今別荒馬 (青森県)

七月エイサー (沖縄県)

ちやーびらさい (沖縄県)

♪ポランの広場 (宮沢賢治 詩・丸山亜季 曲)

♪トラリラ夏がきたよ (ドイツ子どもの歌)

唐船ドリー (沖縄県)

沖縄のわらべうた

こーじやーんまぐわ (八重山諸島・竹富島)

はねこ踊り (宮城県)

虎舞 (岩手県)

お囃子 (青森県)

秩父屋台囃子 (埼玉県)

ちやーびらさい

アイヌ古式舞踊 (北海道)

七月エイサー

唐船ドリー

沖縄のわらべうた

荒馬

森の樹虎舞

森の樹囃子

夏祭りという行事



森の樹では「お祭りの本当の意味」を伝えたいと願って、民俗舞踊の会（夏祭り）を続けてきました。「出店の綿菓子とかヨーヨーとか金魚すくい=お祭り」ではないことを森の樹の子どもたちに伝えたいからです。

お祭りの踊りは、感謝のために神様に奉納する踊りです。

豊作や豊漁を授けてくださっている地の神様 海の神様に、そして命を授けてくださっている先祖に、感謝するための踊りであり、奉納の踊りを踊ることが祭り（祀り・奉り）というわけです。でも、どういうわけか、「踊ることは純粋に楽しい」のです。笛と太鼓の音を聞いただけで血が騒ぎ肉が踊る。不思議です。

奉納の踊りには、もうひとつの大切な意味があります。

昔は疫病鎮静の願いも込めて踊ったのだそうです。その村に疫病が入ってこないようにと。

昔、人々は疫病を大変おそれていました。疫病が度々流行したからです。薬もない時代でした。そこで今年も、この願いも込めて舞い踊りたいと思います。

毎年子どもたちにはお祭りの意味を伝えてきましたから、子どもたちも、お祭りというのは興奮して大騒ぎをするものではなく、毎日食べている食べ物に心静かに感謝をする日であることを知っています。

ですから、今年もひそやかにそれぞれが手をあわせて、地の神様と海の神様に感謝をし、疫病鎮静の祈りをささげたいと思います。

大和（やまと）、沖縄、北海道にも、世界にも、それぞれにたくさんの古くからの民俗芸能が残っています。

民俗芸能とは、謡（うた）・楽器の演奏・踊り等のすべてを指します。どれも現地の方々の生演奏で奉納されるものです。

森の樹の職員は、「お囃子（笛や太鼓や鉦）・舞い踊り・謡」のどれをも、現地の方たちから学び、先輩から後輩へと伝えてきましたし、現在も学び続けています。

感謝の奉納のために謡い舞い踊るといふ、古くから伝わってきた大事な「文化」を、森の樹の子どもたちは、楽しみのひとつとして受け継いできました。

森の樹の子どもたちは「民俗舞踊」が大好きです。

（文責：河野小枝子）